

## 電気柵で農作物を守る

対象獣に合った電気柵を設置し適切に管理すれば、農作物被害は必ず防ぐことができます。

### 1 電気柵の防御の仕組み

電気柵は、獣が行う「探査行動」を利用して柵線（電気柵の電線、以下電線と記述します）に触れさせ、電気ショックによる痛みを覚えさせ、危険なものと学習させて侵入を防ぐものです。

獣は普段通っている場所に新しい障害物ができると、それが危険なものか確認するため「探査行動」をとります。この時に通電していない電線に慣れてしまうと、安全なものとして認識してこれ以降は電線を気にせず侵入してしまいます。この様に電線に慣れさせないためには、電気柵を設置した日から24時間常に通電して防御する必要があります。

### 2 獣の行動の基本

獣はむやみに障害物を飛び越える行動はとりません。

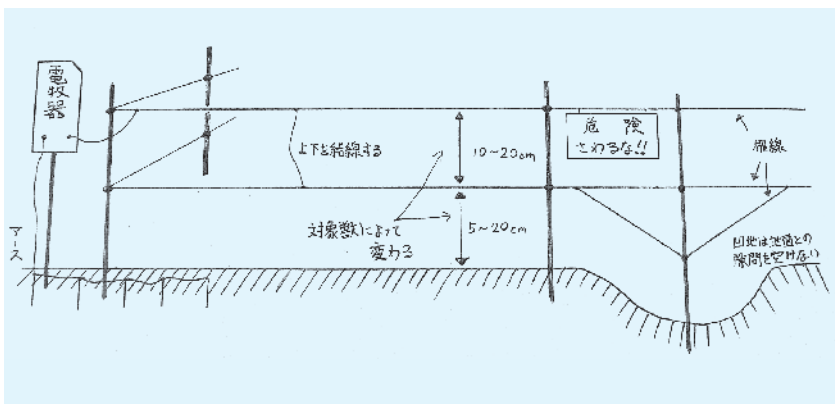
障害物ができると「探査行動」をとり、下に隙間があれば潜ろうとします。そして潜れないとわか

ると障害物を乗り越えようとしませんが、決して安易に飛び越える行動はとりません。

電気柵は、この行動を利用して電線に触れさせ防御しますので、電線下の隙間に注意して、潜られないように設置することが重要です。

### 3 電気柵の設置方法

● 段張り方法と楽落くん



加害獣別柵線（電線）の設置高さ

	基本段数	1段目(地面から)	2段目(1段目から)	3段目(2段目から)
ハクビシン	3段	5～10cm	10cm	15cm
アライグマ	3段	10cm	15cm	15cm
タヌキ				
イノシシ	2段	20cm	20cm	

※ 雑草等による漏電に注意が必要

#### 楽落くん

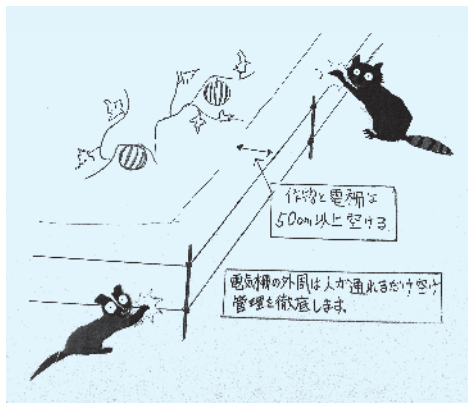
幅33cm程度のトリカルネットを地面と隙間無く張り、トリカルネット上5cmに柵線（電線）を1段張りする電気柵で、「登る」のが得意なアライグマ、ハクビシン、「掘る」のが得意なタヌキ、アナグマの両方に対し、絶妙な高さで感電するよう誘導する電気柵です。電線の位置が高いので雑草管理が楽になります。

### 4 電気柵の設置場所

(1) 電気柵と作物の間を空けます。電気柵に作物が近いと食べようとする気持ちが勝り、電気柵を突破される原因になります。電気柵と作物は最低50cm以上離します。

(2) 電気柵の外周は、電線を管理する人が通れるだけ空けます。こまめに見回り、雑草の管理を行い漏電に注意します。

(3) 電気柵の設置を予定する場合は、前記(1)、(2)を踏まえて、作物を作付します。



### 5 電気柵利用上の基本

(1) 電気柵の設置は、農作物被害が発生する前に設置し、その日から通電して防御を開始します。

(2) 電源は常時「入」、24時間常に通電して防御します。収穫終了後も電気柵を片付ける時まで通電し、獣が通電していない電線に慣れないようにします。

(3) 漏電は、獣への電気ショックが弱くなり、防御効果が無くなります。電線の切断や雑草等による漏電に特に注意して管理を徹底します。